



五十五会会長(沖縄総合事務局OB会)

島袋 幸松

内閣府(沖縄開発庁)の出先機関として設立された沖縄総合事務局は、沖縄が本土に復帰した昭和四十七年五月十五日に事務所が開設され、爾来三十年間開発行政に寄与した功績は顕著である。

復帰当時の職員構成は琉球政府引継ぎ職員を始め、日本政府南方連絡事務所の職員、復帰後各省庁からの出向者、及び少数ではあるが、米国民政府からの職員で編成されていた。

さて、復帰が確定した当初私は南方連絡事務所に約一力年在職していたが、復帰に向けての沖縄総合事務局の庁舎借り上げのため、建築中の松屋産業ビルの設計図面を大蔵省へ送付し借り上げの準備をしたり、本土からの出向職員の

宿舎借り上げに奔走していた当時、走馬灯のように懐かしく思いだされる。

復帰当日は朝からの雨だったが午前中は水道公社(米国民政府)所管財産の引き継ぎで大蔵省の係官と伴に沖縄市にあった水道公社の事務所引継ぎを完了させた。

その後、米軍が使用している国

過するうちに、職員の一体化が進められた。

開局十周年を契機に、OB同志の交流を望む声が強まり、また局内でも話題となり、いよいよOB会の発足に向けての気運が高まった。

五十五会は、昭和五十八年五月に誕生し、開局十一年目に設立を

沖縄総合事務局 創立三十周年を 記念して

有財産の提供事務は一日の空白も

許されない事から、提供財産事務処理のため、決済書類の持ち廻りで多忙を極め、復帰記念式典にも出席する事が出来ず残念な思いをした。

開局当時は、寄り合い所帯の職員構成のため、何かと蟠りもあったが、時の経過とともに意志疎通が図られるようになり、十年が経

みた。

五十五会は設立以来、毎年総会を開催し、現職の皆さんとOBが相集い、有意義な懇談や情報交換の機会を持ち、旧交を暖め、親睦を図っている。ところが昨今の公務員の綱紀粛正でややもすると現職の皆さんとの間に疎遠感が生じる事もありましょうが、先輩達と忌憚のない意見を交わす事でそこか

ら何とも躍動感あふれる時代の精神を学ぶ事が出来ると思うのである。

沖縄振興開発計画も第一次の本土との格差是正、産業基盤整備、経済、社会の開発に始まり、第二次の沖縄の特性を積極的に生かしつつ引き続き格差是正を図り、平和で明るい活力ある沖縄県を実現することを目標に進んだ。第三次では二次にわたる沖縄振興開発に基づき本土との格差是正、自立的発展の基礎条件の整備の二つの柱を基本目標にしていますが、失業率や県民所得等の分野では、依然として厳しい状況にある。

新たな振興計画を審議する審議会が今年四月からスタートし、二〇一一年度までの十年間の沖縄のあるべき姿を審議されると思いますが、沖縄総合事務局においては、県当局とも十分な意見交換を経て、新振計の予算措置も含め、今後十年間の政府および県当局の行動指針となり、県民にわかりやすい二十一世紀の新振計を練り上げられるよう創立三十周年を記念してお願い致す次第である。